アプリを組み込んだ防犯要望アプリ配信により、スマートシティ事業の導入を後押しし、利用者の増殖機構を整備する狙いがある。ドコモ、沖縄セルラーは、2012年度中に、沖縄県内の一部地域で、スマートシティ事業の実証実験を開始する。

また、ネットワーク監視システムの開発・販売を行うオプテージは、ネットワークの監視業務を効率化するサービスを提供し、企業向け市場の開拓を進める。

フラッシュ

電通、O2Oが野村総研と業務提携

電通は10月1日、ネットで興味を持った企業情報と、リアル店舗の販売員（O2O（オンライン・トゥー・オフライン）販売員）との接客を連携させる新サービス「スマートライト」を開発したと発表した。今後、店舗などでの商品購入時にポイントが付く機能を付けて共同販売を始める。

スマートライトはマルやピックカメラなどの店舗で使える約6万箇所のポイントを共有するサービス「スマポ」を運営。米アプリが開発した、店舗に訪れる顧客専用アプリが開発ポイントを獲得できる。

このサービスを、電通の子会社が開発・提供する。CMなどを通じて配信したテレビ画面の商品をタブレット端末でタップすると、専用アプリが起動するなど、店舗に訪れる顧客専用アプリが開発ポイントを獲得できる。

新たな海底ケーブル運用開始

KDDIは10日、日本とシンガポールを結ぶ新たな海底ケーブルの運用を始めたと発表した。既設のケーブルと併せると、米国西海岸から日本を経由し、シンガポールなど東南アジアのデータセンターを結ぶ、高速な通信のやりとりを確保するルートが整う。

新たな海底ケーブル（日本エンカンポール）は、東南アジア全域に分散する、約8000テラビット（テラは1兆）の大容量通信に対応。約3000万人の高精細映像を同時に伝送できるという。今回のケーブルは総投資額が約4億ドル（約310億円）。全社のうち、KDDIが約3割を負担した。

栄誉に輝く 平成24年度 土木学会賞

平成24年度土木学会 技術開発賞

土木事業の計画・設計・施工または維持管理に、独創、創意工夫に富んだ優れた技術を開発・運用化し、土木技術の発展を通して社会に貢献した業績に対して授与される。

平成24年度土木学会 環境賞

環境への負荷を低減する土木技術やシステムを開発・運用し、良好な環境を保全するとともに、より豊かな環境の創造に貢献した画期的な業績やプロジェクトに対して授与される。

技術開発賞：既設鋼桁の地・防災における調査と点検技法の開発

環境賞：「環境調和コンクリート」の開発と実用化

技術賞：東京都心の内訳分岐部・復旧工事

技術賞：東京都心の内訳分岐部・復旧工事

平成24年度土木学会 技術賞

土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与した計画・設計・施工・維持管理等の、画期的な個別技術（1グループ）やプロジェクト（1グループ）に対して授与される。

平成24年度土木学会 田中賞（作品部門）

橋梁技術の進歩と発展に資することを目的に、橋梁および関する構造物の新設や改築で計画・設計・製作・施工等において、特色ある作品の中から、特に優れたものに対して授与される。

技術賞：高速鉄道建設用新幹線・連続立体交差事業

技術賞：東京都心の内訳分岐部・復旧工事

技術賞：鉄道建設（東北新幹線北上駅）

技術賞：鉄道建設（東北新幹線北上駅）

未来を築く優れた建設技術

技術賞：鉄道建設（東北新幹線北上駅）

技術賞：鉄道建設（東北新幹線北上駅）

技術賞：鉄道建設（東北新幹線北上駅）